



### 上海電子公司見学～知恵にあふれたリーダーと固い絆に結ばれた大家族

五日間にわたった見学ツアーもあっという間に最終イベント。貴重な見学の機会を一秒も無駄にしたいという雰囲気の中で一行は朝早く上海合璧公司へ向けて出発しました。



林金財博士賢伉儷

合璧公司に到着して最初に目に入ったのは緑あふれる宮廷の花園のような工場の風景でした。正門では詹先輩と従業員たちが笑顔でわたしたちの到着を迎えてくれました。車を降りると待っていたのが胸に飾る花とクラシック音楽。わたしたちはVIPの気分で見学をスタートしました。同時に、詹先輩の手厚い歓待に感激しました。

このあと午前中は工場を見学しました。短い時間でしたが、とても有意義でさまざまなことを、砂が水を吸うように吸収することができました。ハード面では、塵ひとつないほどきれいな工場の建屋、いまでも印象に残る大型機械の数々、整理整頓が徹底された規律正しい空気、そして快適な環境の従業員休憩エリアなどを見学しました。そして驚いたのが詹先輩の卓越した経営方式です。詹先輩の教育と精神観念が合璧公司をほかとは違った特別な存在にしていることです。合璧公司では音楽や芸術が独特の雰囲気を出しているほか、詹先輩が従業員を家族のように大切にしています。それはまるで固い絆で結ばれているようです。

企業の発展という面でも合璧公司には詹先輩の考え方が深く反映されています。古代文明の共通価値、日常における禅の5Sの実践、「感謝と恩返し」、社会への還元」という経営理念、これらが一体となった企業文化が合璧公司を国際的に発展させ、さらには永続経営の動力となっているのです。また、工場の敷地内にはいたるところで感謝の意を表す石碑や植樹が見られますが、これらは詹先輩の恩師や母校に対する感謝の気持です。これらも合璧公司の従業員たちの精神的な支柱となっているように感じました。

今回の工場見学では、企業経営は家族を養うのと同じこと、大きな愛をもって従業員を守り、教育していかなければならないという詹先輩独自の経営文化にふれることができました。合璧の従業員はこうした文化の中で成長し、会社発展のために努力していくのです。その模式はまるで企業経営の手本のようにさえ思えました。



彰工母校電子科主任 林金財博士 (79年電子科)

見学のあと、昼食会が行われました。詹先輩はそれぞれのテーブルに合璧公司の幹部を2名ずつ同席させ、ふれあいの機会を作ってくれました。そして、一行が工場を後にすると、幹部たちとともに一列に並んで見送ってくれました。彼らはその間5分、ずっと手を振っていました。車の中からその様子を見ていたわたしは詹先輩の「愛」と「心」に感激するとともに、詹先輩の偉大さを改めて実感しました。今回の見学ツアーはわたしにとって、見聞を広めるとともに考え方も広げることのできる素晴らしいものでした。

### 小さな事から知恵を体験

日常の中には、小さな事の中に大きな意味が含まれていることがあります。



それを見つけたとき、わたしはとても嬉しくなります。

董事長といっしょにハルビンへ行ったときのことで。董事長は「トイレを掃除するから」といって出しました。中国の公衆トイレは我慢できないほど臭く、すぐにでも逃げ出してしまいたいほどです。そのトイレを董事長は掃除するというのです。董事長は男性用便器の前にしゃがんで、その中に嵌ったふたを素手で外しました。そして何年も掃除されずに黄色くなった、臭くて鼻が曲がりそうなそれを見て「人間が排出したものだから、臭いだけで毒じゃない」といって笑いました。わたしも自分の家でトイレの掃除をすることがありますが、これにはびっくりしました。なぜなら、これは知らない人たちが使ったものだからです。董事長はふたの掃除をはじめました。小さな穴に黄色いこびり付いた垢を錐(きり)で丁寧に落とし、表面を雑巾で拭き、それでも落ちない汚れは自分の指を使って、最後は見えないところまできれいにしてしまいました。

トイレを掃除したことのある人ならわかると思いますが、たびたび汚れた水が顔や身体にかかります。それに顔から流れ落ちる汗が目の中に入って痒くても手で拭うこともできないし、背中には汗でべたべたになるし、鼻は臭いにおいでひん曲がりそうになるし、たいへんな重労働です。ましてや長年におわたって掃除していない公衆トイレの掃除ですから、想像を絶する辛さがあります。

数回水で流すにつれて、便器は見る見るうちに白さを取り戻し、ふたの穴からは水がきちんと流れるようになり、さっきまで臭かったにおいもなくなりました。掃除が終わったあと、董事長は掃除に使った雑巾を洗剤で洗うと、ぎゅと絞って、躊躇うことなく自分の顔や身体を拭きました。それを見てわたしは気がきました。前に日本の郵政大臣が、自分が掃除したあとの便器の水をコップですくって飲んだことがありますが、それにはどういう意味があったのかということ。彼は掃除をした者の謙虚な気持とともに、自分の仕事に対する自信を表したに違いないと思います。これは偉大なことです。このときの董事長は自らのつましい態度でわたしたちにあることを伝えてくれました。それは、今日の合璧は決して財力で大きくなったわけでも、自然に発展したわけでもないということ、つまり合璧は謙虚な心の累積によって発展を遂げたということです。董事長は中国でトップ5000の資産家に数えられる人物ですが、彼の態度は常に謙虚です。そしてこの謙虚さが偉大な事業を成し遂げさせたのです。わたしはこうした合璧の偉大さは今後受け継がなければならぬと強く思います。そのためには日常の小さな事から始めなければならないと思います。

小さな事から知恵を体験。人類が偉大なのは考える力を持つこと、さらにはそれを知恵へと変えていくことです。絶えず小さなことに注意を払いながら自らの知恵を増やしていくことの大切さを、今回のことを通して改めて感じさせられた気がします。

上海合璧電子電器有限公司

中國201-805上海市嘉定區安亭鎮安瑞路318號  
TEL: +86-21-5950-5466

上海合璧 林生富經理

### わたしを救ってくれて ありがとう

わたしに対する同僚の思いやりに、そして遠く台湾から見守ってくれた董事長に心から感謝したいと思

います。  
6月3日、わたしは朝起きると体の異常を感じました。そして宿舎で同室の李香燭さんと葛暉組長に嘉定中心病院へ連れて行ってもらいました。受付の手続きを済ませ、診察の順番を待っているとき、トイレに行きたくなりました。ところが、その途中で倒れてしまったのです。李さんがびくびくして医者を呼んでくれました。そして、わたしの病気は青春期の子宮出血と診断されました。わたしはこのような病名を聞いたことがなかったので、とても不安になりました。さらに医者からは輸血が必要だといわれました。

翌日の晩、林經理が病院に駆けつけてくれました。林經理は力なく弱っているわたしを見て、医者に状況を聞いたあと、即座に輸血を決めました。このときはすでに真夜中でしたが、林經理は血液バンクから輸血用の血液を調達してきました。これがわたしの命を救うことになったのです。

翌日は端午節、工場は休みでした。朝、葛組長が来て、林經理から病状確認の電話があったことを聞きました。また、林經理は日本からのお客様との仕事が終わ次第、お見舞いに来るとも聞きました。それからしばらく眠りましたが、ちょうど起きたころ、総務部の同僚たちがお見舞いに来ました。このあとさらに工場長、梁經理、楊經理、劉副理、馬主任、周副理、周課長と多くの同僚がお見舞いに来てくれました。このときわたしは何となくいいかわかりませんでした。ただ、心の中で「家族のようなみんなに見守られて、わたしは幸せだ」と思ったのです。

翌日は故郷から母が病院に駆けつけてくれました。わたしは母にこれまでのいきさつを話したのですが、母はみんなに感謝の気持ちをどう表したらいいかわからず、戸惑っていました。董事長から電話があったのはちょうどこのときです。わたしは優しい董事長の声を聞いた瞬間、自分の体がよくなったように感じました。そしてもう一度、家族のようなみんなに見守られて本当に幸せだと思いました。あとで知ったのですが、董事長は6月5日の朝8時にはこのことを知っていたそうです。そして、わたしを救うために全力を尽くせと関連部署の同僚たちに告げたそうです。これによって、迅速な輸血ができ、手術をしなくても奇跡的に回復したというわけです。すべてが終わったいま、改めて董事長の思いやりの気持ちを身にしみて感じています。

### 合璧は温かい家族～趙麗救助の記録

上海合璧製造課同仁 趙麗

みんなが楽しく過ごす端午節。しかし、今年の端午節はそうはなりません。同僚の趙麗さんが急患で入院したから。体に異常が生じた場合、人はだれかに助けを求めるものです。今回、趙麗さんから連絡を受けたときは、わたしは彼女のわたしに対する信頼とともに、何とかしなければという強い責任を感じました。わたしは最初、彼女の症状は一時的な軽いものだと思っていました。しかし、バス停でバスを待っている間の彼女の青白い顔を見たとき、これはだめだと思って、すぐにタクシーで行くことを決めました。医者の診断によると、彼女の病気は青春期の子宮出血でした。このとき彼女は出血過多によって顔面は蒼白で、こんな状態の一手前という感じでした。この状態では生命の危険もあるということで、医者からは即座に入院するよういわれました。



趙さんからは、心配させたくないでおかさんには連絡しないでほしいと頼まれました。それにわたしも事態はそれほど深刻ではないと思っていたので、会社の上司にも報告しませんでした。しかし、翌日の晩11時ごろ、彼女の出血がひどくこんな状態になっているのを見たとき、わたしは不安になって上司に報告しました。

林經理と総務の王倩倩さんが病院にやってきました。彼らは医者にも病気の状況を聞くと、治療に全力を尽くしてほしいと頼みました。そして緊急輸血が必要だと知ると、すぐに血液バンクから血液を調達しました。輸血の血液が一滴ずつ趙さんの体に注ぎ込まれるにつれて、彼女は徐々に回復の兆しを見せ始めました。わたしはこのときやっと一息つくことができました。時計を見ると夜中の1時半でした。林經理は翌日日本からのお客様を迎えなければならなかったのですが、この時刻まで病院に留まりました。このとき、わたしは上司と部下の間を越えた家族愛のようなものを感じて感動しました。

翌日、日本からのお客様が帰った午後1時ごろ、全部の上巻をはじめ、たくさんのお客様が昼食も取らずにお見舞いに来てくれました。工場長、梁經理、張經理、周副理、周課長、馬主任をはじめとする上司から医者にも聞いたり、趙さんに対して口々に温かいことばを送ったりしました。林經理は病院でのいろいろな手続きを行い、李峰さんと総務の李海躍さんは血液バンクに血液を取りに行き、楊經理は病院の副院長に治療に全力を尽くしてもらえよう頼みました。これらの光景は家族の絆を感じさせるもので、同室に入院していたおばさんからは「ひとりの従業員のために、こんなにたくさんのお客様が見舞いに来るなんていい会社だね。羨ましいよ」といわれました。それを聞いて、わたしは自分の会社を少し誇りに思いました。

趙さんの病状も落ち着き、さらに翌日には趙さんのおかさんが病院に到着しました。わたしはそれまで病院に残っていましたが、林經理と李峰さんが最後まで付き添うということで、家に帰ることにしました。帰途途中、今回の一連の出来事台湾の董事長が5日の朝8時には知っていたことを聞きました。董事長は趙さんを救うために全力を尽くせと関連部署の同僚たちに指示するとともに、林經理には2時間おきに状況報告するようにいったそうです。このとき、わたしは董事長がずっと趙さんのことを気に掛けていたのだと思いました。董事長が常日頃から口にしている「我々はみな家族」ということばは朝礼のときのスローガンではなかったのです。董事長自ら態度でそれを示してくれました。

趙さんは迅速な輸血が行われたことで、手術を回避することができました。もうしばらく休養すれば退院できるということです。そして、今回の趙さんの救助を通して、わたしは改めて自分の会社が固い絆で結ばれた家族だということを確認しました。また、董事長の価値観と経営理念がいかに素晴らしい謙虚で卓越したものであるのかも実感しました。わたしたちはここでアルバイトをしているのではなく、みんなが家族の一員として、みんなが会社のために頑張っているだけではないと思います。最後に従業員みんなが仲良く、そして健康であることを心から祈りたいと思います。

上海合璧製造課組長 葛暉

合璧は我等温もりの家；我は合璧を愛し、合璧は我を愛する；關心關懷關照 同心同歩同調！